

# 皮膚科 研修カリキュラム

## 【科の紹介】

多岐にわたる皮膚疾患は、様々な原因のもとに皮膚自身あるいは全身性疾患に関連した結果現れるものであり、その診療にあたっては、正確な知識と十分な臨床経験を必要とする。当科は日本皮膚科学会専門医研修施設に認定されており、常勤医師 3 名で外来、入院、手術治療を手がけ、若手医師の皮膚疾患に対する習熟度を高め、ローテートで訪れる研修医の教育に力を入れている。

\* 研修は 2 週間以上、受け入れ可能人数は 1 名

## A. 一般目標

皮膚疾患を有する患者に対して、専門的な治療が必要であるかどうかを判断し、一般的な皮膚疾患に対しては自ら適切な処置ができるように、皮膚科研修において様々な皮膚疾患を経験する。また、患者家族の心理面に配慮しつつ、理学的所見を中心とした皮膚科的診断とその治療を行うことのできる臨床能力を習得する。皮膚科では一般臨床医として皮膚および粘膜に現れる症状を適切に判断して、その患者の診断治療に速やかに対応できる最低限の皮膚科学的な知識、診断力、考え方と技能を身につける。

## B. 行動目標

1. 皮膚病変を観察し、発疹の形態、部位、大きさなどを客観的に記載することができる。
2. 湿疹、皮膚炎、乾癬等一般的皮膚疾患を診断するために、病歴をとり肉眼的診断を行い、基本的皮膚科検査を選択することができる。
3. 皮膚生検の手技に習熟し、応用することができる。
4. 真菌検査を習熟し、白癬、癬風などの真菌性疾患の診断、治療を行うことができる。
5. 皮膚疾患の基本的治療法(外用剤の選択と軟膏処置(包帯法を含む))を選択できる。
6. 外用療法としてステロイド外用療法や一般的外用剤の作用機序を理解し、接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、虫刺傷、日焼け、慢性湿疹、褥瘡、疣贅などの治療を行うことができる。
7. 皮膚科領域の手術症例に対して、助手として手術に参加し、真皮縫合、特に皮膚悪性腫瘍、熱傷手術等における植皮術における採皮などの基本的手技を会得する。簡単な切除や生検と縫合、及び切開・排膿は術者としてできる。
8. 皮膚科手術の術前、術後の管理ができる。
9. 皮膚病変から推測できる多臓器疾患(膠原病、自己免疫疾患等)について、全身検査や全身的治療を要する疾患の診断治療が理解でき、全身疾患について適切に専門医にコンサルテーションできる。
10. 皮膚科救急疾患(アナフィラキシーを含む各種アレルギー疾患)の初期診療ができる。
11. 経験すべき症候・疾病・病態
  - 1) 経験すべき症候

外来または病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、基本的な検査所見に基づく臨床推論と病態を考慮した初期対応を行う

    - a. 発疹

b. 熱傷・外傷

C. 指導体制

1. 皮膚科医師は指導責任者として、ローテート期間を通して研修の責任を負う
2. 患者の診察、検査、治療に関する直接的指導は主治医(指導医)が行う。
3. 定期的に研修医の研修目標達成の進捗具合を点検し、適切に研修医に指示を与えるか直接指導を行う。

D. 研修方略

1. オリエンテーション

- 1) 研修カリキュラムの説明
- 2) 科の概要

2. 病棟研修

- 1) 病棟褥瘡チーム回診に参加し、経験褥瘡患者の管理、褥瘡の局所治療創傷被覆剤の特徴と適正使用について経験する。

3. 外来研修

- 1) 指導医・研修協力医の指導のもと、皮膚科治療を研修する。
- 2) 実地診療で患者さんを前にしたとき、正確な皮膚病変の把握とともに、初診時までの治療内容や他疾患での投薬歴など、様々な患者の背景について充分認識すること。
- 3) 皮膚病変を見るときには、常に内科的疾患との関連や精神的な問題なども考慮し、広い視野で皮膚疾患を考えていくこと。
- 4) 外来診療における問診・視診などはオリエンテーション時、指導医・研修協力医から指導を受ける。
- 5) 微生物学的検査・皮膚生検皮膚テスト(貼布試験など)は外来研修で経験することができる。
- 6) 各種外用剤の特徴と臨床使用については外来研修で経験することができる。
- 7) 術前・術後患者処置、皮膚外科の基本的な手技については指導医・研修協力医に指導を受けながら参加する。
- 8) 植皮術には助手として参加することができる。
- 9) 外来症例検討、病理組織検討については外来研修で経験することができる。
- 10) 熱傷の重症度評価(深達度、面積など)、熱傷の局所治療について経験する。

【週間スケジュール】

	午前	午後	時間外
月曜日	外来診療	病棟回診	症例検討会
火曜日	外来診療	手術 褥瘡回診	(手術)
水曜日	外来診療	病棟回診	
木曜日	外来診療	病棟回診・褥瘡回診	病理検討会
金曜日	外来診療	手術	(手術)

【勉強会・カンファレンス・学会】

上記週間スケジュール参照

- ・毎週月曜日：16:00～ 症例検討会
- ・毎週木曜日：病理検討会

【定例研修会】

会名	世話人	開催曜日	会場
三重大症例検討会	山中	毎木曜日	三重大皮膚科医局
三重皮膚科医会	野内	年間1回	不定
三重皮膚科専門医会	野内	年間2回	不定
松阪伊勢皮膚懇話会	小西	年間1回	不定

E. 研修評価チェックリスト

- 皮膚病変を観察し、発疹の形態、部位、大きさなどを客観的に記載することができる。
- 湿疹、皮膚炎、乾癬等一般的皮膚疾患を診断するために、病歴をとり肉眼的診断を行い、基本的皮膚科検査を選択することができる。
- 皮膚生検の手技に習熟し、応用することができる。
- 真菌検査を習熟し、白癬、癬風などの真菌性疾患の診断、治療を行うことができる。
- 皮膚疾患の基本的治療法(外用剤の選択と軟膏処置(包帯法を含む))を選択できる。
- 外用療法としてステロイド外用療法や一般的外用剤の作用機序を理解し、接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、虫刺傷、日焼け、慢性湿疹、褥瘡、疣贅などの治療を行うことができる。
- 皮膚科領域の手術症例に対して、助手として手術に参加し、真皮縫合、特に皮膚悪性腫瘍、熱傷手術等における植皮術における採皮などの基本的手技を会得する。簡単な切除や生検と縫合、及び切開・排膿は術者としてできる。
- 皮膚科手術の術前、術後の管理ができる。
- 皮膚病変から推測できる多臓器疾患(膠原病、自己免疫疾患等)について、全身検査や全身的治療を要する疾患の診断治療が理解でき、全身疾患について適切に専門医にコンサルテーションできる。
- 皮膚科救急疾患(アナフィラキシーを含む各種アレルギー疾患)の初期診療ができる。